

保育園入園待機乳児保育室利用者の交流会

平成25年度保育園入園待機乳児のための保育室を9月1日より開室しました。この保育施設は、自治体に保育園入園申請をおこなったが、入園待ちを余儀なくされている女性研究者等を対象としています。運営は、民間企業に委託し、大学が一部費用を負担して実施しています。今年度は、センター建替え工事のため、仮施設での実施ですが、みんな元気よく過ごしてくれています。

そして、保育室利用者の交流会を10月29日（火）12時から13時の昼休み時間を利用して行いました。司会進行は、育児・介護WG主査の山肩洋子先生で、保育士から利用児の保育室での様子、鴨川への散歩、食事風景などの説明を聞いた後、育児のことなどを話題に保護者同士の交流を深めました。



ベビーシッター利用育児支援（男女共同参画推進室にて実施）



京都大学男女共同参画推進室（総務部人事課労務管理室）では、教職員の仕事と子育ての両立を支援するため、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッターによる在宅保育サービス事業を行う者（以下「ベビーシッター事業者」という。）が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

利用を希望される方は、男女共同参画推進室のサイト（<http://geco.adm.kyoto-u.ac.jp/>）をごらんいただき、申請を行ってください。



■概要

利用対象者	原則として、配偶者も就労している本学教職員（本学で社会保険に加入している非常勤教職員を含む）
対象児年齢	0歳～小学校3年生、その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童
割引金額	1日につき1家庭 1,700円
利用時の注意事項	(1) 就労のためにベビーシッターサービスを利用する場合に限ります。 (2) 利用者の家庭内での保育あるいは保育所等への送迎を依頼する場合に限ります。 （ベビーシッター宅等利用者の家庭以外での保育には使用できません。） (3) 割引券の利用可能枚数は1日1枚、1ヶ月24枚、1年間280枚まで ＊詳細はこども未来財団のサイトをご参照ください。

女子中高生のための関西科学塾



第8回 女子中高生のための関西科学塾 <http://kagaku-juku.jp/>

参加者募集

行ってみようよ。カ・ガ・ク。の時間。

理科や実験好きな女子はもちろん、文系の志望の通っている人も大歓迎！ 初めての経験をお待ちしています。

プログラム

A 2013年6月9日(日) 10:00-16:00
開会式、講演会、理系大学生とのグループトークなど、京都大学

B 2013年9月23日(月・祝)
ノーベル賞受賞者による座談会、グループワークなど
コングレナショナルセンター(所 大阪新すく)

C 2013年10月20日(日) 午後
実験 大阪大学(高校生)
大阪府立大学(中学生)

D 2013年11月9日(土)(予定)
見学会 けいひんな学研都市の研究所
けいひんな女性研究者との交流会

E 2013年11月17日(日) 午後
実験 神戸大学(高校生)
奈良女子大学(中学生、高校生)

F 2014年3月15日(土)・16日(日)
実験、発表会、進路相談、交流会、表彰式、閉会式
京都大学(京都トラバース・イン道)

「卵から体ができあがるしくみ」
京都大学 高橋淑子教授
動物の体はどのように作られるのでしょうか？とは
たった一つの受精卵。それが細胞分裂を繰り返すうち、
ふと気づくと、心臓が動き、手足が伸びてくる。
このしくみは、生命の不思議な営みです。高橋先生から最新の研究成果を
「卵」から「体」まで紹介します。

和と学びのサミット
「個性が育むサイエンスーノーベル賞受賞者が語る」
日本が誇るノーベル賞受賞者である、下村 勝 博士と話し、
博士をお招きし、サイエンスの魅力を語ってもらう講演会です。
ノーベル賞にまつわる疑問は、博士から直接お答えする
機会に恵まれました。高橋先生から研究者へのメッセージ「ノーベ
ル賞は『夢』じゃない！」

参加申込みと問い合わせ

ウェブサイト：ホームページの「第8回関西科学塾申込みフォーム」から
FAX：関西の参加申込み（メールで申し込みからダウンロード）を送信
E-mail：申込みの必要事項をメールで転記し、件名を「科学塾申込」として

京都大学理学部社会交流室 関西科学塾運営事務局
URL: <http://kagaku-juku.jp> (最新情報に備えてください)
FAX: 075-753-3645
E-mail: juku@sci.sci.kyoto-u.ac.jp

●受付後、折り返し日程や報告の詳細をお知らせします。

申込み締切 5月31日(金) 必着

定員：120名(先着順)
※定員は、参加費の確保状況により変動する場合があります。

参加費：A～Eは無料
Fのみ5,565円(税込・送料)
※Fのみは、別途色紙あり

女子中高生のための関西科学塾は、文部科学省関連の法人、科学技術振興機構の「女子中高生の理系進路選択支援事業」から助成を受けて行われる、科学実験教室や講演会を主体としたイベントです。より多くの女子中高生が、理系の進路に興味を持ち、将来理系の職業を選ぶことを目的に開催しています。毎年関西の大学が持ち回りで主管校になり行われています。今年度は、京都大学を幹事校として、関西の大学や研究機関等で開催中です。

2013年6月9日(日)、京都大学にて、開会式が行われました。参加者は、女性研究者の講演を聴き、京大生とともにグループトークを行いました。

【A】プログラム

- 10:00 開会あいさつ 常見 俊直 実行委員長
(京都大学理学部・理学研究科 社会交流室 講師)
- 10:15- 講演 「卵から体ができあがるしくみ」
高橋 淑子 教授(京都大学理学部・理学研究科)
- 11:15- <C> 日程実験テーマの班分けについてお知らせ
- 11:25- — お昼休み —
- 12:30- <C> 日程実験テーマの班分け
- 13:00- グループトーク
「理系大学生と一緒に語り合おう」
- 13:45- グループコミュニケーション
「アイデアと力を出し合って競ってみよう」
- 15:00- 全体会
- 15:50- 閉会あいさつ・事務連絡



JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

9月23日（月・祝）には、JR大阪駅近くのコングレコンベンションセンターにて、第2回のプログラムが開催され、関西科学塾OBの講演、ノーベル賞受賞者による講演と座談会が行われました。

【B】プログラム

10:30 開会あいさつ 常見 俊直 実行委員長
（京大大学院理学部・理学研究科 社会交流室 講師）
10:45- 講演 「物理りけじよの今とこれから。」
海岸 美華 さん（奈良女子大学理学部4回生）
11:05- 質疑応答
11:15- "グループ対抗りけじよ王は誰だ？"
12:00- — お昼休み —
14:00- 講演・対談 知と学びのサミット
"個性が育むサイエンス—ノーベル賞受賞者が語る"
下村 脩 博士
「緑色蛍光たんぱく質の発見—決してあきらめない」
益川敏英 博士
「夢をつかむ『好奇心』に迫る」
15:55- 閉会のことは
16:00- 終了



国立女性教育会館「国際研修プログラム」に協力

2013年10月1日「アジア太平洋における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」（国立女性教育会館）一行が、女性研究者支援センターを視察されました。

国立女性教育会館は、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGO リーダーを対象に、女性の能力開発を目的として研修を行っています。平成25年度は、カンボジア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムから9名の女性リーダーが来日し、東京・京都で研修を受けました。

午前の楽友会館でのセミナー「日本の若い世代にとっての男女共同参画」（コーディネーター：伊藤公雄 女性研究者支援センター推進室長）に続き、センター施設の見学を行いました。

そして、犬塚典子 女性研究者支援センター特定教授が、女性研究者支援の取組みについて概要を説明しました。センターの待機乳児保育室や「グリーン・カーテン」の取組みなどについて質問も飛び交い、女性の視点での育児支援、環境問題への関心の高さがうかがえました。



連載：研究者になる！－第44回－

芋虫と私

農学研究科・助教
吉永 直子



昆虫の研究をしていると、昔から昆虫少女だったのかとよく訊かれますが、むしろ逆です。子供の頃、マンシヨンの階段に蛾が止まっていると、息を止めて壁伝いに忍び足で駆け下りていました。芋虫・毛虫は見るのもおぞましいと思っていました。その芋虫が実はかなりのベビーフェイスで撫でるとふにゃふにゃ気持ちいいなんて、研究で、自分で育てるようになるまで知りませんでした。なら何で昆虫の研究室を選んだのか。今思い返しても、何となく面白そうだったから、としか言いようがありません。その対象が好きかどうかと、自分がのめり込むかどうかはあまり関係ないようです。

「知りたい」という動機を持つこと、疑問を自分のものとするのが研究の本質だと、文化人類学の福井勝義先生が熱く語っておられたのを最近になって思い出します。2回生で選択したこの一般教養の演習には当初30名近い履修者がいましたが、フィールドワークのテーマを自分で見つけるという最初の関門でほとんどが脱落しました。その頃、私は別に履修していた地図学演習で「消えゆく銭湯」について実地調査する課題が出ていたので、銭湯文化をテーマに選びました。一石二鳥を狙ったわけです。当然ながら、それを選んだ理由を先生に訊かれました。最初は下調べで得た知識でそれなりに答えていましたが、すぐに魂胆がばれてしまい、「研究は時間もエネルギーも使う。生半可な気持ちでは続かない」と言われました。結局、与えられたテーマを取っ掛かりとして夏休みに始めた湖西農村でのフィールドワークは4回生の秋頃まで続いたと記憶しています。調査地の方々のご厚意と励ましに支えられたおかげでした。単位はもう関係なく、何とか形にして恩返しをしたい一心で、友人と共著で冊子に纏めるところまで先生に指導して頂きました。けれども、達成感があったものの、どこかで「借り物」の研究だった感が拭えません。疑問を自分のものにしたという実感がなく、そもそも何故文化人類学に興味

をもったのか、自分の中で掘り下げることができませんでした。

その淡い敗北感があったからかもしれません。研究室に入った時には、今度はとにかく本気を出したくて、与えられた課題「イネに誘導抵抗性を引き起こす昆虫由来エリシター」を何が何でも見つけてみせると意気込んでいました。芋虫が気持ち悪かろうが、有機化学が苦手だろうが関係ない。私の本気を出しさえすれば何がしかの結果は出るはず、と。ところが、やってもやっても、あと少しというところで結果がするりと逃げていく感じです。ここまでムキになったのは初めてというぐらい遮二無二のめり込んだ卒論研究で、得られた結論は「この世の摂理は私の努力と無関係である」すなわち no data でした。思えばこの時初めて、深みに嵌るという感覚を味わった気がします。博士課程進学覚悟を決めたのもこの頃でした。

今、教員側の立場になってもどかしく感じるのは、こうした自分の中の「知りたい」欲求・執着がどういふものかをうまく伝えることができない点です。私も学生時代はそうでしたが、いい発見をすることが目的だと思い込んでしまっただけで、周りが次々と結果を出すことに焦ったり、自分には才能が無いと落ち込んだりしがちです。せめて大学にいる間だけでも、成果は二の次にして、まずは何かに食いついて自分で考え研究を進める醍醐味と、やるだけ無駄だと耳で囁く悪魔にうち勝って「これを解くのは私だ」という執念を味わってもらいたいです。それが研究者の原点となり、研究を続ける原動力になると思います。

とはいえ、これまでに私も一度だけ、ぽっかりと執着が失せた時期がありました。いろいろと自分のことが思うように行かないのに、何で芋虫のことなんかで悩まなければいけないのかと。研究のどうしてもよさに、ふと気づいて我に返った瞬間でした。幸か不幸かそんな精神状態は長く続かなくて、いつの間にかまた無心に葉っぱを食べる芋虫を眺めて和みながら「何でこいつらは……」と考えるようになって今に至ります。対象が好きではなくても研究にのめり込むことはできますが、一旦のめり込めば自然と愛着が湧くのかかもしれません。



Center for Women Researchers

〒606-8303 京都市左京区吉田橘町
電話 075 (753) 2437
FAX 075 (753) 2436
E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>